

健康教育の推進

1 体育、保健体育授業の工夫改善

現行学習指導要領の全面実施から小学校で4年目、中学校では3年目を迎えています。各学校での体育授業は変わってきているでしょうか。

管内の状況を見てみますと、課題解決型の学習に取り組んでいる学校(学級)は、中学校では100%ですが、小学校では94.4%に止まっています。また、「生涯にわたって運動に親しむ能力の(基礎)を育てる(体育科、保健体育科の目標)」ための手立てが不十分な例も見られます。

学習指導要領(解説)の趣旨、内容を十分理解し、体育、保健体育授業の工夫改善に努めることが重要です。

(1) 現行学習指導要領の改訂にあたって示された4つの課題

平成20年1月の中央教育審議会答申において示された体育科の改善の基本方針に「体育科、保健体育科については、その課題を踏まえ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る。」(一部抜粋)とあります。

ここで言う「その課題」とは、以下の4点です。

運動する子どもと運動をしない子どもの二極化傾向がある。
体力の低下傾向が依然深刻である。
生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られる。
学習体験のないまま領域を選択しているのではないか。

(2) 授業の工夫改善の重要性

体育科ではこの課題に対応するために、以下のことが重要になってきます。

「児童生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わわせることで、運動好きにし、二極化傾向を解消するとともに体力の向上を図る。」

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、運動が嫌いな児童生徒の多くは、「授業でうまくできなかったから」を理由に挙げています。このことから、体育授業の影響は大きく、児童生徒をいかに運動に親しませ、いかに「できた」という経験を味わわせるかが、体力の向上や運動への意欲向上のカギとなることが分かります。

私たちは、「生涯にわたって運動に親しむ能力の(基礎)を育てる」という体育科の目標を達成し、「明るく楽しい生活を営む態度を育てる」ために、日々、授業の工夫改善に取り組んでいくことが大切です。



「平成26年度調査報告書」より

(3) 授業の工夫改善の基礎・基本

指導内容の明確化を図る（事前の手立て）

学習指導要領では、発達段階のまとまりを考慮して下図のように指導内容の体系化が図られました。また、各学年の目標及び内容は、指導内容の確実な定着を図ることができるよう、学習指導に弾力性をもたせることを配慮して、低・中・高学年の3段階で示されています。

「体育科・保健体育科指導内容の体系」

小学校			中学校		高等学校		
1. 2年	3. 4年	5. 6年	1. 2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降
様々な動きを身に付ける時期			多くの運動を体験する時期		少なくとも一つのスポーツに親しむ時期		
体づくり運動			体づくり運動		体づくり運動		
器械・器具を使った運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技
水遊び	浮く・泳ぐ運動	水 泳	水 泳	水 泳	水 泳	水 泳	水 泳
表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球 技	球 技	球 技	球 技	球 技
			武道		武道	武道	武道
			体育理論		体育理論		
保健領域			保健分野		科目保健		

したがって、2学年にわたって学習する内容については、どの学年で、どこまで指導するのかを明確にしておかなければなりません。

学習指導要領解説で各指導内容の目標及び例示を確認しましょう。

<例> 中学年のマット運動

目標	(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。 ア マット運動では、基本的な回転技や倒立技をすること。	
基本的な回転技の例示	前転（発展技：大きな前転、開脚前転） 後転（発展技：開脚後転）	
基本的な倒立技の例示	壁倒立（発展技：補助倒立、頭倒立、ブリッジ） 腕立て横跳び越し（発展技：側方倒立回転）	
3年の指導内容(計画)		
<基本的な技の学習> 前転、後転、壁倒立、腕立て横跳び越し ----- 基礎・基本をしっかり身に付ける。		
4年の指導内容(計画)		
<発展技の学習> 大きな前転、開脚前転、開脚後転、補助倒立、頭倒立、ブリッジ、側方倒立回転 ----- 発展技をひとつおとり経験する。 挑戦したい技に重点的に取り組む。		
苦手な児童（基本的な技ができていない児童）には、4年生でも基本的な技を学習する場を設け、身に付けさせるよう指導します。		

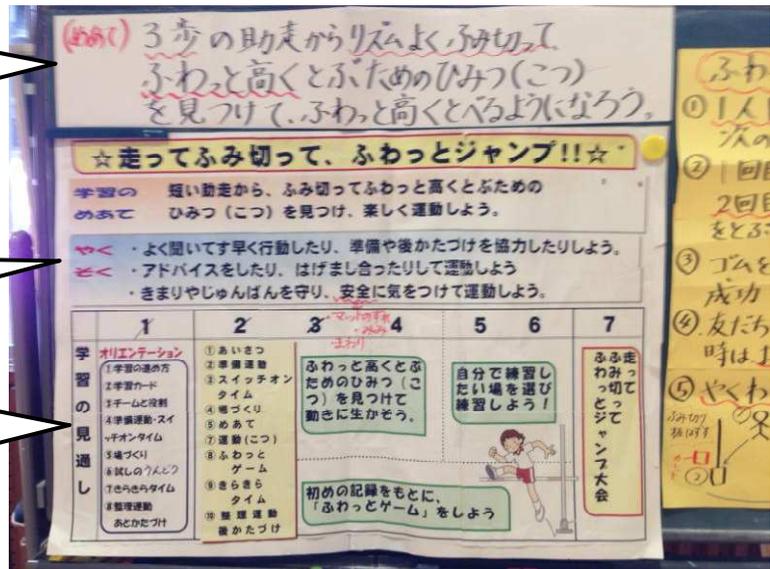
単元の指導計画を提示する

単元の指導計画を作成し、児童生徒に示します。学習の見通しをもたせることは、意欲を継続させ、主体的な学習態度を生み出すことにつながります。

「学習のめあて」を児童生徒が理解できる言葉で示します。

基本的な「学習の約束」や「きまり」を示します。

おおまかな「単元の流れ」と「1時間の進め方」を示します。



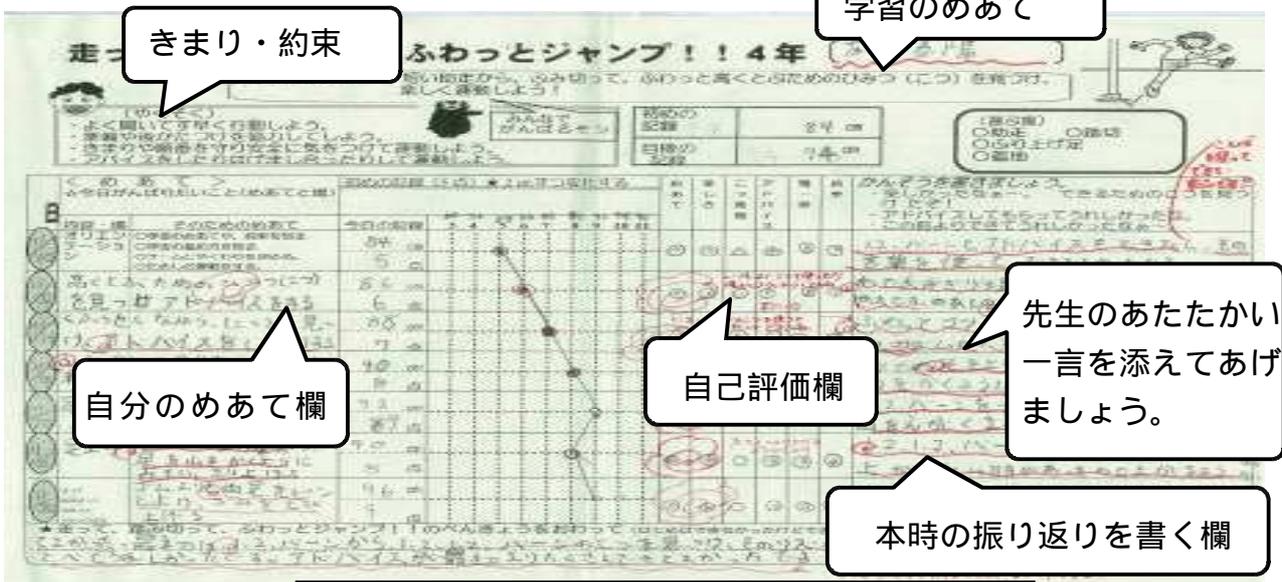
体育科授業マイスター原田加代子教諭の実践から

単元のはじめに確認し、その後、約束やきまりは徹底指導を

行います。また、1時間のはじめには本時の進め方を簡単に確認し、児童生徒が見通しをもって学習を進められるようにしましょう。小学校の場合は教室に掲示しておきいつでも見ることができるようしておくとういでしょう。中学校の場合は体育館等に掲示しておくこともできます。

学習カードを使用する

学習カードは、児童生徒の学びの履歴となるばかりでなく、教師からの評価の資料ともなります。必ず設けたい欄は、「自分のめあて」、「自己評価」、「本時の振り返り」の3つです。教師の支援により、児童生徒が、自分なりのP-D-C-Aサイクルで学習を進めることができるようになります。また、振り返りでは、授業中に表れない声や見逃してしまった成果を知ることができます。



体育科授業マイスター原田加代子教諭の実践から

授業の進め方を工夫する

ア 冒頭で学習の目標（めあて）を示す

児童生徒の主体的な学習を促すためには、授業の冒頭で本時の目標（めあて）が示されなければなりません。個々に課題をもつ場合は、学習カードで把握しておき、授業の冒頭で声を出して言う、友だちと交流するなどの手立てにより、意識化が必要です。

イ 課題解決情報を示す

授業の「なか」の部分では、児童生徒が課題解決を図るために有効な情報を示す必要があります。特に押さえておきたい技能等は、一斉指導での児童生徒とのやりとりにより、発見させ、共有化する必要があります。共有化したポイントはボード等に記録し、いつでも見ることができるようにしておくといでしょう。その他にも、小学校高学年や中学生ではあらかじめ学習資料を渡しておき、参考にさせ、自分なりに学習を進める方法もあります。

ウ 教え合いの活性化

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、できるようになったきっかけとして「友だちに教えてもらった」、「先生や友だちのまねをしてみた」、「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」等の回答が多くありました。教師が学習状況を把握し、適切な支援をすることはもちろん、友だち同士の教え合いを活性化することも重要です。

エ 終末に振り返りの活動を行う

授業の終末には、1時間の学習を振り返り自己評価を行います。この後、自分が頑張ったことや友だちのがんばり等を発表させます。次の目標を持たせるとともに、自己有能感を高める手立てともなります。

授業改善のためのP-D-C-Aサイクル

右図のように、授業後は、児童生徒の目標の実現状況を見取り、自らの指導したことを見直し、次の授業に生かすことが、授業の工夫改善にとって非常に重要となります。

事例として今回は小学校の例を多く挙げましたが、中学校も基本的な手立ては同じです。

